

本日の学び:「正義の若枝が生え出でる」 テキスト:エレミヤ33章1~3節、10~16節

【理解の手がかりとして】

本課テキストは 33 章、今回でエレミヤ書の最終回である。しかしエレミヤ書は全 52 章あるので、34 章~最終章(52章)までを概観しておく。

- 34章 ゼデギヤ(滅亡時点のユダの王)、エルサレムの一時的安泰に、同胞への契約を破る。  
強大なバビロン軍の攻撃が日に日に激しさを増す中、エレミヤは王に主の言葉を告げる。内容は、エルサレムが焼き払われることと、王の運命についてである。ゼデギヤ王の契約破棄とは、バビロン軍のエルサレム包囲中に起こった一つの出来事。それは、いったん奴隷を解放しておきながら、間もなくその契約を反故にして、再び強制的に奴隷の身分に引き戻したというもの。契約をないがしろにする振る舞いに対して厳しい主の裁きが宣告される。
- 35章 祖先に忠実なレカブ人と神に不実なイスラエルの民  
レカブ人とはミディアン(遊牧民族)の地に住んでいた遊牧民族。彼らは、イスラエル人がモーセによってエジプトから救い出され時、イスラエル民族に加わり、エルサレム近郊に定住した。35章ではエレミヤがレカブ人に会い、その堅い忠誠心を確認した出来事が語られる。それによりユダの人々の不真実を際立たせている。
- 36章 エレミヤ、ヨヤキム(滅亡前三代目王)が焼き捨てた預言の巻物を再びバルクに作らせる  
エレミヤの預言の言葉が、書記バルクによって巻物にされたことを伝える章である。この章の要点は、民の側が契約を破ったという明白な事実を語るころにある。すなわち、エレミヤを通して語られた神の言葉を、民を代表する王がはっきりと拒絶したこと、それによって神の裁きとしての災いの到来が必至となったということである。
- 37章~44章 エレミヤの受難物語  
37章から44章まではひとつのまとまり。エレミヤの預言活動の最後の時期(エレミヤとバルクがエジプト亡命グループに強いられてエジプトへ移り住んだ時期まで)。エレミヤの苦難の数々が含まれており、エレミヤの受難物語である。
  - 37章 エルサレムの小康状態の時、投獄されたエレミヤを王が助ける
  - 38章 助けてくれたゼデギヤ王に、エレミヤなおバビロン降伏を勧告
  - 39章 亡国(エルサレムの陥落)とゼデギヤたちの捕囚。一方、エレミヤの身の安全の保障。
  - 40章 祖国にとどまる決意をしたエレミヤ
  - 41章 ダビデ王家のイシュマエル、アンモン王と通じて、バビロン派の新総督ゲダルヤを殺害
  - 42章 軍長ヨハナンたち、エレミヤの言葉を疑い、バビロンの報復を恐れエジプトへ
  - 43章~44章 連行されて行ったエレミヤ、エジプトとその偶像に走る同胞に預言
- 45章 とともにエジプトに来たバラク、エレミヤの預言を思い出す  
エレミヤの言葉を筆記し続けた忠実な書記バラクに対して与えられた主の言葉がここに記されている。エレミヤは、自らの意志によってではなく、神の選びによって神の言葉に奉仕する道を歩むこととなった。その人生はまことに険しく苦難に満ちたものとなった。バラクの場合も同様である。しかし、二人を選んだ神の守りは、始めから終わりに至るまでひとときも二人を離れることはないのである。
- 46章~51章 諸国民に対する預言  
46章~51章に収められている(諸国民に対する預言)を、イスラエルの勝利を約束する意味での敵への呪いとして読むなら、エレミヤの思想とは相いれない。なぜなら、エレミヤが激しく批判したものが、ほかでもない、イスラエルの勝利を安易に約束する論敵の楽観論であったからである。したがって、諸国民に対する主の言葉は、ユダへの言葉と同じく、世界の歴史の主権者、つまり神の経綸(統治)を示す言葉として読むのが相応しい。
  - 46章 エジプトはバビロンに一度負けたように、また負ける
  - 47章~48章 ペリシテとモアブの滅亡の預言

■ 49章 アンモン、エドム、ダマスコ、ケダルとハゾル、エラムへの預言

■ 50章～51章 最後に、バビロン滅亡とイスラエルの回復

➤ 52章 以上エレミヤのすべての預言の証明として亡国(エルサレムの陥落)と捕囚の事実の報告

52章の最後には、ヨヤキン(滅亡前二代目王、父はヨヤキム。数か月の治世のあと捕囚としてバビロンに引かれた。36年間捕囚としてバビロンに留まったが、前562年に解放され、王族としての待遇を受けた)の名誉回復の待遇が伝えられている。ヨヤキンがゼデキヤ(39:7)とは対照的な運命をたどったことが印象的。この点でも、エレミヤがバビロンに服従することが神の意志であると語った預言が、二人の王の運命を分けた。

さて、本課のテキスト33章を見てみよう。選ばれている聖書箇所は1-3節の告知「あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる」と10-16節の復興の様相(「隠された大いなること」(33:3))の部分である。以下にユダの現状と未来について分けて明示する。

ユダの現状(主の裁き)	ユダの未来 (主の救い:隠された大いなることの預言)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 破壊された都の家屋や王の宮殿(4節)</li> <li>● 都は死体に溢れる(5節)</li> <li>● 廃墟で人も住まず、獣もない(10節)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● いやしと治癒と回復、まことの平和(6節)</li> <li>● 繁栄を回復し、初めのときのように建て直す(7節)</li> <li>● すべての罪から清め、犯した罪と叛逆のすべてを赦す(8節)</li> <li>● 喜ばしい名声、賛美の歌、輝きをもたらす(9節)</li> <li>● 喜び祝う声、花婿と花嫁の声、感謝の供え物を主の神殿に携えてくる(11節)</li> <li>● 羊飼いが牧場を持ち、羊の群れを憩わせるようになる(12節)</li> <li>● 再び、羊飼いが、群れをなして戻って来る羊を数えるようになる(13節)</li> <li>● 恵みの約束を果たす日が来る(14節)</li> <li>● 正義の若枝を生え出でさせる。彼は公平と正義をもってこの国を治める(15節)</li> <li>● ユダは救われ、その名は「主は我らの救い」と呼ばれる(16節)</li> </ul>

『聖書教育』より

- 「わたしたちが『正義の若枝』で思い起すのはイエス・キリストです。…12月からアドベントが始まります。『主はわれらの救い』であるイエス・キリストによる『公平と正義をもってこの国を治める』日を祈り求めていきましょう。」(聖書の学び～正義の若枝が生え出でる)
- 「世界では歌声をかき消す戦争が起きています。歌うことを取り戻すためにできることは何でしょうか。」(大人クラス)